



NPO法人えーる
松村さんご夫妻
理事長の松村義生さん、施設長の百合子さんご夫妻。「えーる」は支える人、支えられる人がともにエールを送り合う、の意味。

【連絡先】
静岡県伊豆市下白岩700-1
TEL 0558-83-5102



売れ行き好調のクッションと、ハーブ入りのふくろうの置物



さをり織り工房「幸の羽」、NPO法人「天使のベンチ」、就労継続支援B「楽糸(いと)」代表。

加藤ひろ子さん
56歳。山形県出身、函南町在住。作業所が軌道にのったらグループホームを作るのが目標。

【連絡先】
静岡県田方郡函南町平井
南箱根ダイヤモンド55-365
TEL 080-8250-1844
http://ameblo.jp/yukinoha-saori

「さをり織り」のおかげで、娘の障がいや気がすることが少なくないです。親としていつも思っているのは、自分が亡くなった後の娘の人生です。娘の場合は「さをり織り」で社会とつながり、仕事ができるという自信をもつことができました。障がい者も自分で収入を得る手立てをもたなければ、年金だけでは生活できません。障がい者を地域の「障害」として隠すのではなく、「障がいのある人もない人も、共に精神的、経済的に自立できる社会を作っていくことが大切だと、加藤さんは強く感じています。」

伊豆市で障害者支援事業所「えーる」を運営する松村義生さん、百合子さんご夫妻は、長年、養護学校や特別支援学級で教師をしてきました。「学校で就労支援を行っても、就職後、長続きせずに家に引きこもってしまう人が多い。そんな現状を見て、なんとか障がい者が働く場を広げたいと、退職後に「えーる」を立ち上げました」と、百合子さん。

商品の企画、制作、販売をすべて自分たちで手がけ、地域の企業や住民とのネットワークを重視しているのが「えーる」の特色。作業所内では名刺を印刷したり、ミシンで縫製を行ったり、木材を細かくカットしたりと、各々が違う仕事を行っています。「下請けでみんなが同じ仕事をするとすると、納期に追われ個々の持ち味（能力）を生かした作業ができなくなりません。そこで私たちは自主製品の開発に取り組み、一人ひとりの得意分野を生かした仕事ができるよ

うに工夫しています。手先が器用な人、持久力がある人、みんな何らかの長所がありますから。」
さらに、商品の品質にもこだわりの「障がい者が作るのだから下手でもいい。同情で買ってもらおう。それでは本当の自立はできません。観光施設のお土産コーナーや小売店に並んだ時、一般の商品に劣らないデザイン、品質の良いものを作るように心がけています。そして少しでも売上が増やしたいです。修善寺の伝統的な紙すき技術を生かした名刺やはがき、しおり、古布でつくる編み込みクッションなど種類も豊富で、最近は注文が多くて生産が間に合わないものもあります。また、原材料をリサイクルで補っているのも注目したいところ。
「障がい者は社会からなかなか認められず、辛い思いをしています。でも、どんな障がいがあっても必ずできることがある。私たちはその芽をつぶさずに、明るく育てていきたいのです。」

「さをり織り」の世界にどんどん惹かれていきました。習うほどに娘の技術も上達し、洋裁や和裁が得意な私が、娘の織った布から洋服や小物を作るようになりました。」
そして、縁あって仙台から函南に転居。しかし、加藤さん親子にとって現実には厳しいものでした。「働く場、仕事の選択肢がないんです。娘

は紹介された職場に馴染めず辞めてしまいい、しばらくは親子で家にこもる日々でした。」
悩んだ加藤さんは「働く場がないのなら自分で作る」と立ち上がり、織りを本格的な仕事にする道を選び始めました。「とにかく作品を見て、知ってもらおうと、親子でPRに奔走しています。函南町役場近くにも工房を置き、現在10名ほどの障がい者の方に指導しています。最近、口コミで展示会にも多くの人

が足を運んでくれるようになったという理由に基づいています。」
加藤さんは娘の幸恵さんが通っていた仙台の養護学校で「さをり織り」と出合いました。「私も娘も、」
「さをり織り」の世界にどんどん惹かれていきました。習うほどに娘の技術も上達し、洋裁や和裁が得意な私が、娘の織った布から洋服や小物を作るようになりました。」
そして、縁あって仙台から函南に転居。しかし、加藤さん親子にとって現実には厳しいものでした。「働く場、仕事の選択肢がないんです。娘



良いものを作って売るそれが自立への自信に

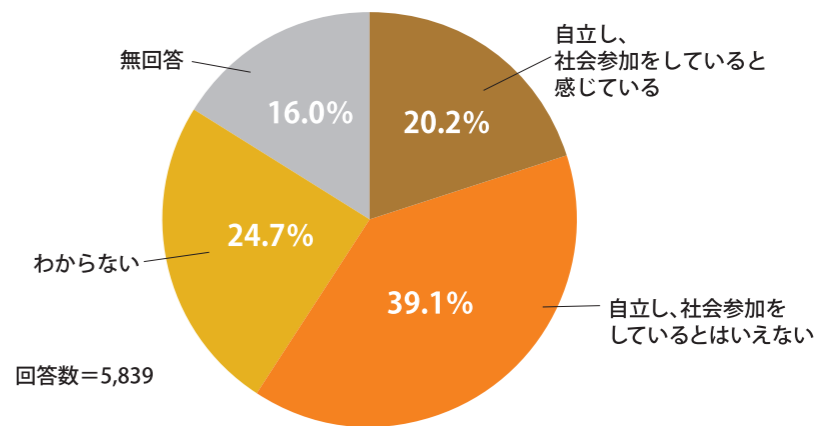
障害を気にせず、オリジナルの手織りで社会に羽ばたく

障がいがある人の社会参加を支える

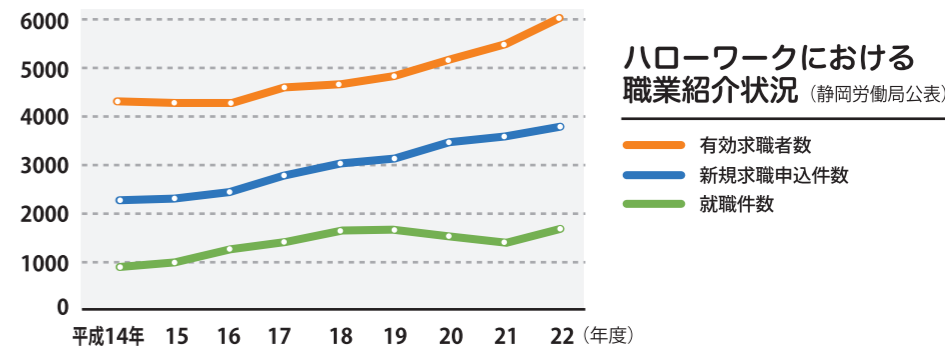
自立・社会参加を実感している人は約20%

ふじのくに障害者プラン21(第2次静岡県障害者計画、第1期静岡県障害福祉計画)

障がいがある人の中で「自立し、社会参加をしていると感じている」人は約20%、「自立し社会参加をしてはいえない」と回答した人は約40%に上り、「わからない」「無回答」を含むと、「自立し社会参加をしていると感じている」人のほうが断然少ないということが読み取れます。



ハローワークでの就職相談は、障がいがある人の「働きたい」という意欲の高まりから、年々増加しています。就職件数は、経済状況悪化の影響から減少した時期はありましたが、企業の取り組みの拡大等もあり増加に転じています。しかし、依然として厳しい就職状況が続いています。



Key Word

● 障害者手帳

広義には身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳といった、障害を有する人に対して発行される手帳の総称。種別や等級によって異なるが、一般に公共施設・公共交通利用料金の割引、税控除などが受けられる。

● 就労継続支援A、B型事業所

障害者自立支援法に基づく就労継続支援のための施設「就労継続支援事業所」の形態。「A型」は障害者と雇用契約を結び、原則として最低賃金を保障するしくみの「雇用型」。「B型」は利用者が比較的自由に働きながら社会参加できる場。就労継続支援事業所は、一般企業への就職が困難な障害者に就労機会を提供するとともに、生産活動を通じて、その知識と能力の向上に必要な訓練などの障害福祉サービスを供与することを目的としている。

● 障害年金

年金制度に加入している間または20歳になるまでに、病気やけがで一定の障害が残ったとき、程度に応じて支給される年金のこと。国民年金加入者には障害基礎年金が支給される。支給を受けるためには、所定の保険料納付要件を満たしていることが条件。無年金障害者(年金の未加入や保険料の未納のために、障害者に該当しても障害年金の受給権がない)問題や、障害認定の基準や適用方法などが明確さを欠くなど、いくつかの課題がある。



おすすめ本

さをり織り工房「幸の羽」、NPO法人「天使のベンチ」代表 加藤ひろ子さんより

～その時々のお気持ちに合わせて、心の薬のような本を～

● 『「いい人」をやめると楽になる』
曾野綾子 著/祥伝社



● 『本当に大切なものはいつも目に見えない』
佳川奈未 著/PHP研究所



● 『さをり織り』
城みさを・城英二 著/ぶどう社



貧困は決して他人事ではないと気づいてほしい。



P4



一人ひとりの暮らしに根ざす部分で、男女共同参画を促す働きかけが必要なのではないか。

P10

「○○はできない、△△はダメだ…」とネガティブに考えない。



P6

貧困とは、2つの『エン』、つまりお金の『円』と人の『縁』を失うこと。

P4

本人の強みを発見し、生かしていくと、必ず社会につながる道がある。

P12



障がいのある人もない人も、共に精神的、経済的に自立できる社会を作っていくことが大切。

P12



P8

親の価値観で、子どもを迷わせるのはやめたほうがいい。



辛いと思ったときに、足を運んでもらえたらいい。

P10



頭の中であれこれ悩むより、まず働いて経験を積み、ということです。

P8



基本は、とにかくおせっかい(笑)。

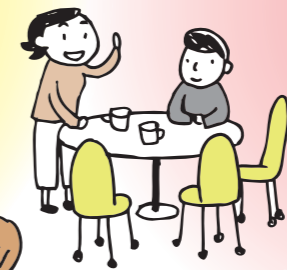
P6



どんな障がいがあっても、必ずできることがある。私たちはその芽をつぶさずに、明るく育てていきたいのです

YES, I can!

P12



出たり入ったり、つながったり切れたり、行きつ戻りつする人を迎え入れる場になりたい。

P10



厳しいとはいえ、チャンスがないわけではありません。

P8



親としていつも気にしているのは、自分が亡くなった後の娘の人生です。

P12



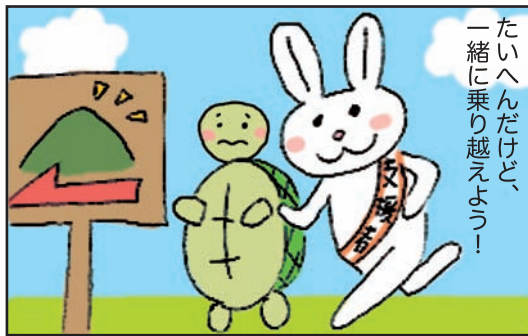
心に残ったあの言葉
今号の取材で伺った言葉の中から、編集部員の心に残ったものをピックアップ。苦しい時、大変な時に、リフレインしたくなる素敵なお言葉を、それぞれの思いを込めて選びました。

支援者と被支援者という関係ではなく、人対人のもつと深い部分で絆を作っていく。

P4

助けたカメに…

編集員 なつきち



たいへんだけど、一緒に乗り越えよう！



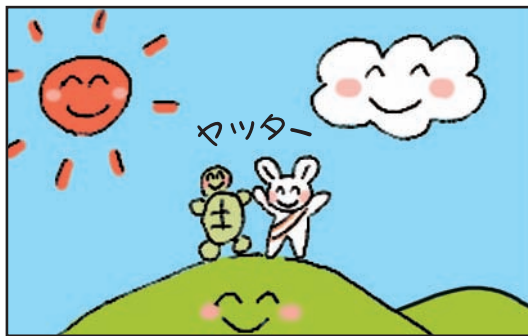
う～ん しんどいよう～

無理しないで 一歩ずつ



がんばろうね!

あれっ、いつものまにか 応援されてる!?



マッタク

60号の感想をお寄せください

- ◆QRコードから
 - ◆E-mail kouryuukaigi@ka.tnc.ne.jp
 - ◆FAX 054-251-5085
- いずれかの方法をお願いします。



編集後記



写真前列左から
利根川初美
梶山雄紀
平尾夏生
後列左から
市川美弥子
鈴木亜希
増渕礼子

●「支える」って、「自己犠牲」じゃなくて「自己実現」なんだと思います。今、道の途中で立ち止まっている人。そんな誰かに気付いた人。この本がそれぞれにとって、また「一歩、前へ」踏み出すきっかけになればと思います。(編集長・梶山雄紀)

●人生、思うようにはならないものです。人はもろい…でも、人は強い。何とか折り合いをつけて生きていくこともできるし、どうにかしようがむしゃらに頑張ることもできる。選べることはほんの少しかもしれないけれど、迷いながらもどこかに向かって行こう。(市川美弥子)

●現代社会はこんなにも不安定なんだ、いまの私はかろうじてここに立っているのだということを実感させられた今回の取材。と同時に、「そんな時代だからこそ、自分たちで切り開いて生きていく」という強い志にも触れることができました。見習わなくては！(鈴木亜希)

●この1年は「支え合う」ことの大切さが際立った年でした。決して一過性のブームとするのではなく、一人ひとりが心に刻む必要があります。今号でとりあげたすべてのテーマはわたしたちの身近にある事象です。ほら、あたりを見回してみてください。(平尾夏生)

●「勝つ」のではなく「負けない」「あきらめない」。困難が多い時代を生き抜くためには、そんな心構えが必要なのは。昔より寿命が延びている分、「人生ロード」の走行距離も長くなっています。持久力、つけなくちゃ。(アドバイザー・増渕礼子)

●困難が次から次へとやってくる人生。「周りに対しては白黒つかない中途半端な状態でもむりやり色を決めず、状態が変化していくのを待つ、ねばって関わり続ける」、逆に自分は「変化する勇氣」を持ちたいと思っています。(デザイナー・利根川初美)

編集員募集

- 募集人員／若干名
- 編集作業／『ねっとわあく』の取材、発行などに携わります。年間16日前後(取材時を除く)
- 作業会場／静岡市駿河区馬淵1丁目17-1「あざれあ」
- 募集期間／平成24年3月10日(土)～4月10日(火)
- 問合せ先／あざれあ交流会議グループ TEL 054-250-8147 E-mail epoca@azarea.pref.shizuoka.jp
- その他／日当、交通費支給



Shizuoka Prefecture

ねっとわあく

2012/3/11 Vol.60

発行日／平成24年3月11日
〒422-8063 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1
企画・編集・発行／あざれあ交流会議グループ
TEL／054-250-8147 FAX／054-251-5085

編集長／梶山雄紀
編集員／市川美弥子、鈴木亜希、平尾夏生
アドバイザー／増渕礼子
デザイナー／利根川初美

「ねっとわあく」は年2回(3月、10月)発行します。県民生活センター、県内の男女共同参画センター、市町役場、公民館、公立図書館、文化会館などで配布しています。会社やご友人にもぜひ回覧してください。